

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970400170	
法人名	医療法人景雲会	
事業所名	グループホームあずさ	
所在地	山梨県笛吹市春日居町国府436	
自己評価作成日	令和元年11月11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年11月28日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様は一人ひとりのペースでホーム内でゆったりと過ごされている。近隣の方々との交流の場を少しずつ広げていく努力をしている。地域行事に参加して地域の方々との交流を深めている。  
 運営推進会議を2か月に1回開催して助言や意見をサービスの向上に活かしている。  
 併設病院と医療の連携を取り終末期の支援看取りを行っている。  
 5段階からなるスピーチロックの自己評価表を作りスタッフの意識付けを行っている。  
 身体拘束等の適正化の為の対策を検討する委員会を設立しスタッフに研修を定期的に行っている。月1回の避難訓練、年2回の夜間防災訓練、水害を想定した防災訓練、地域防災訓練等に参加し入居者様が安全に避難出来る様にスタッフが身に付ける努力をしている。キャリアパス勉強会を行いスタッフのスキル向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同法人のリハビリテーション病院に併設され、鉄筋コンクリート2階建ての1階と2階の2ユニットである。最寄りの駅から近く、住宅や温泉旅館、ホテル、商業施設等に囲まれた開けた場所にある。法人の理念に則した事業所の目標として「明るくずっと笑顔で最後まで」を掲げ、利用者に笑顔で接し、コミュニケーションを大切にしている。玄関、事務室の他、各職員のネームプレートにも理念や目標を書いた用紙を入れて意識づけしている。法人の防災訓練の他に、事業所独自で毎月1回一日に避難訓練を実施し、職員と利用者が共に避難経路や誘導を体験する機会を設け、実践に活かせる取組をしている。併設病院とは防災をはじめ、医療面においても協力体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームあずさ**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>1.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	合同カンファレンスにて職員全体で話し合い理念を決める。理念を入りに提示、職員はネームの裏に入れていつでも見て実践出来る様になっている。	合同カンファレンスにて話し合い理念を決めた。理念を入りに提示、職員はネームの裏に入れていつでも見て実践出来るようにしている。	職員アンケートやカンファレンスを基に法人の理念を定め、事業所独自の目標も決めている。理念と目標を玄関等に掲示している他、職員各自のネームプレートにも入れて常に意識しながら実践に繋げている。職員と利用者が共に笑顔で楽しく過ごす為に、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あずさ便りを近隣に配布している。 地域の行事(どんどん焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	あずさ便りを近隣に配布している。 地域の行事(どんどん焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	地域の情報は広報や区長さんから得ている。子ども神輿では事業所のガーデンを休憩場所にしてお菓子を配ったり、どんどん焼き等の行事に利用者も参加している。事業所からは家族の了承を得て事業所だよりを配布し、利用者と地域との交流の様子を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣にあずさ便りを配布したり、地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いている。	近隣にあずさ便りを配布したり、地域の行事に参加して認知症の方への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。入居者様の状況、活動報告等を行い、意見、要望、指導をして頂きサービス向上に活かしている。また地域行事に積極的に参加している。	ホームの状況・入居者様の様子等活動報告を行い、意見助言、要望、指導をして頂きサービス向上に活かしている。また地域行事に積極的に参加している。	2か月に1回運営推進会議を開催し、事業所の報告や出席者との情報交換をしている。水害時の避難訓練について、市の担当者から「停電時に女性職員でも避難誘導できる方法」について意見があり、実際に1階から2階に避難する訓練を実施したが課題もあり、協議検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿介護課長寿総務担当、地域包括支援センターの職員との連絡は常に取っている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて、協力関係を築いている。	長寿介護課長寿総務担当、地域包括センターの職員との連絡はとっている。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えて協力関係を築いている。	運営推進会議をはじめ、事業所の利用状況や運営等について情報交換や助言を受け協力関係を築いている。市が主催する連絡協議会に出席し情報交換したり、研修会に参加している。研修内容は、他の職員と共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入り口がロック式になっているが必要時解除している。スタッフは身体拘束をしないケアを心掛けている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を見て毎日自己評価している。身体拘束等の適正化の為の対策を検討する委員会を設立、カンファレンス等に取り入れ研修している。	職員は身体拘束をしないケアを心がけている。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を見て毎日自己評価し記入している。あずさ合同カンファレンスにおいて身体拘束について学習している。2Fエレベーターの施錠は、夜間のみとしている。	玄関やエレベーターはロック式になっているが、必要時は開錠し、利用者の様子から外に行きたいようであれば、一緒に付き添っている。理念にも「拘束、虐待はしません」と掲げており、特にスピーチロックについては毎日自己評価表に記録し、一日の振り返りをし、日々の支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは虐待が見逃されないように注意を払い防止に努めている。スピーチロックを自己評価してカンファレンスにて話し合っている。	職員は、虐待が見逃されないように注意を払い防止に努めている。スピーチロックを自己評価してカンファレンスにて言葉の虐待がないよう話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について研修に参加したり、市町村連絡協議会に参加して研修を受けている。	権利擁護制度について研修会に参加したり、市町村連絡協議会に参加し研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分な説明を行い、また家族からの不安な事や疑問点を尋ねて理解納得を得ている。解約、改定時には、家族に連絡して理解、納得を得ている。	契約の際十分な説明を行い、また家族からの不安な事や疑問点を尋ね理解納得を得ている。解約、改定時には、家族に連絡し理解納得を得ている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームあずさ**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (あずさ1階)	ユニット名 (あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やホームからの電話時に意見や要望を聞き、それに沿える様に努力している。またご意見箱を設置している。運営推進会議に入居者様、ご家族様にも参加して頂き意見、要望等を伺っている。	面会時やホームからの電話時に意見や要望等を聞き、それに沿えるよう努力している。	玄関には意見箱を設置し、家族への電話や面会時には意見や要望を聴くようにしている。また、運営推進会議に参加している家族から利用者の状況を知りたいという要望があり、事業所だよりに近況を書いて渡すようになった。来訪者には、笑顔で接し話しやすい雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス(ユニット2回、合同1回)にて要望、提案を聞いて運営に反映している。また個人的にも気軽に相談に応じている。	カンファレンス時に職員の意見・要望・提案を聞き、運営に反映している。また個人的な相談にも気軽に応じている。	カンファレンスはユニット単位や合同で実施しており、職員の意見や要望、提案を聴く機会を作っている。個別に相談がある時はその都度、管理者やリーダーが対応している。カンファレンスで要望があり、入浴時の浴槽内の事故防止のため、吸盤付きの椅子を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えていると思う。時間外残業をつけて頂いたり、職場環境、条件の整備に努めている。	職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員参加、外部研修については全員が受けられるように考慮している。グループホームあずさ、ショートステイリリー共同によるキャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。	法人内の研修には全員参加、外部研修については職員全員が受けられるように考慮している。ショートステイリリーと共にキャリアパス勉強会を行いスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して、他事業所に連絡を取ったりして交流に努めている。交流の中で、同業者の活動、取り組みを聞きサービスの質の向上に努めている。	外部研修に参加し、他事業所との交流の中で他事業所の活動や取り組みを聞きサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事要望等に耳を傾け、本人が安心出来る様な関係作りに努めている。入居者様との関わりの中で聴いたこと、感情、態度等を情報として集め、関係作りに役立て安心出来る様に努めている。	本人の困っている事や不安な事要望等に耳を傾け、本人が安心出来るような関係作りに努めている。入居者様との関わりの中で表情態度等から感じ取ったり聞いたりした事を情報として集め、関係作りに役立て安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や契約時に施設の説明を行い、家族からの要望、不安、心配事等を聞き、また入居後の面会時には状況状態等の説明を行いながら関係作りに努めている。	入居時や契約時に施設の説明を行い、家族からの要望・不安・心配事等を聞き、また入居後の面会時には状況状態説明等を行いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望、困っている事を聞き、今何が必要なかを考えて支援している。	本人や家族の要望と困っている事を聞き、今何が必要なかを考え支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしながら喜怒哀楽を共に感じ、暮らしを共にしていると感じて貰える関係作りを築いている。	介護をしながら喜怒哀楽を共に感じ、暮らしを共にしていると感じて貰える関係作りを築いている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームあずさ		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の状況、状態を説明し、面会の少ない家族には電話や面会を増やし行事に参加して頂けるような声掛けを行い、本人を支えていく関係を築いている。	面会時電話時には状況状態等説明し、また行事に参加して頂けるような声掛けを行い本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、近所の人の面会時にはまたきていただけの様に声かけを行っている。美容院、スーパー、お墓参りなど家族が付き添い外出している。また地域行事にも参加している。定期的に手紙を書く入居者様もいる。馴染みの関係が途切れない様に支援している。	家族や友人の面会時に、また来て頂けるよう声かけを行っている。お盆や年末年始他、家族の付き添いで外出される入居者様もいる。地域行事にも参加し馴染みの関係が途切れない様支援している。	以前住んでいた場所の近所の人や友人が面会に来たり、家族の付き添いで美容院、買い物、お墓参り等に外出する機会もある。定期的に手紙を家に出す利用者やカレンダーの目めくりや食事の挨拶をリードしてくれる利用者もあり、これまでの経験や習慣を活かした生活ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の生い立ちや性格を把握し、レクリエーションや行事を通し入居者様同士の間に入りお互いに支え合う様な関係作りの支援に努めている。入居者様同士のトラブルがない様に見守りを行いトラブルがあった場合は間に入りお互いの話を聞き問題解決に努め支援している。	入居者様の性格や生い立ちを把握し、レクリエーションや行事を通し入居者様の間に入りお互いに支え合うような関係作りの支援に努めている。入居者様同士のトラブルがあった場合は、間に入りお互いの話を聞き問題解決に努め支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の必要に応じて、相談や支援が出来る様に努めている。	本人家族の必要に応じて、相談や支援が出来る様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ADL表、サマリー、紹介状、ケアマネジャーより情報収集している。また本人や家族の希望や意向の把握に努めている。カンファレンス時に話し合い、情報を共有している。	入居時に、ADL表・サマリー・紹介状・ケアマネジャーより情報収集している。 本人や家族の希望や意向の把握に努めている。	入居時家族からの聴き取り、ADL表、サマリー、情報提供書等で本人の意向や思いを把握し、入居後もゆったりしている時や入浴時等にコミュニケーションを取りながら思いを把握している。困難な場合は、表情や身振り等から汲み取る。利用者の意向は申し送り書に記入し、カンファレンスで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の会話から、またサマリー、紹介状、情報提供書等から情報を得たりして、生活歴や馴染みの暮らし方やこれまでのサービス利用の把握に努めている。	サマリーや紹介状、情報提供書から情報を得たり、本人や家族との日頃の会話から生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング担当者が評価して各ユニットでカンファレンスを行い、月初めに合同カンファレンスを行い、意見やアイデアを出し合いお互いに共有して変化があれば見直しを行い介護計画に取り入れて作成している。	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めの合同カンファレンスで意見やアイデアを出し合い共有して介護計画に取り入れ作成している。	入居時に本人、家族、関係者等から聴き取り、本人にとっての楽しみや希望も反映した介護計画を作成するが3か月位で評価している。変更なければ、6か月で見直す。毎月モニタリング担当者が評価し、ユニット合同カンファレンスで意見やアイデアを出し合うと共に共有し、より良いケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入して職員間で共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録に勤務者が記入しており、必要な情報は申し送りノートに記入し職員間で共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		



（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームあずさ		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応して、移動美容室への送迎、訪問美容室や訪問歯科への依頼、買い物がある時は付き添い買い物をしている。また状況により買い物を取り替えている。急変時に医療が必要な時には付き添いを行っている。	本人や家族の状況やニーズに対応し、移動美容室への送迎、訪問歯科への依頼、必要な物の買い物を代わりにしている。急変時に医療が必要な時には付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、本人の心身の力を発揮して、安全な暮らしを楽しめる様支援している。	一人ひとりの暮らしを支え、本人の心身の力を発揮して安全な暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族の意向を重視している。家族の希望により、かかりつけ医受診、また併設病院外来から内服処方、受診したりしている。訪問歯科受診もしている。緊急時、職員が付き添うが通常は家族に連絡して来て頂いている。	入居時の家族の希望を重視している。家族の希望がある場合は家族対応にてかかりつけ医に受診。また緊急時は併設病院外来を受診し薬処方してもらうこともある。緊急の場合は職員が付き添うが、通常は家族に連絡して来て頂いている。訪問歯科受診も行っている。	入居前からのかかりつけ医を家族の付き添いで受診している利用者や併設病院を主治医としている利用者があるが、共に受診の際は口頭又は書面で日常の様子を伝えている。週1回の訪問診療や訪問歯科があり、状況に応じた診察を受けている。また、緊急時の体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告をして日常的に関わって貰っている。看護職に報告相談して必要に応じて受診している。	看護職に報告をして日常的に関わって貰っている。看護職に報告相談し必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはサマリー記入や報告を行い安心して治療を受けられる様になっている。また病院関係者と情報交換、連絡を行っている。	入退院時にはサマリー記入や報告を行い、安心して治療を受けられるように病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族の意向を踏まえ重度化や終末期に向けた方針の共有が図られている。医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時にはマニュアルに沿って同法人の病院を受診、対応できない場合は主治医の指示にて他院に転移、治療を受けて頂いている。	本人や家族の意向を踏まえ、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時はマニュアルに沿って同法人の病院を受診、対応出来ない場合他院に転移して頂いている。	入居時に本人や家族の意向を踏まえながら、重度化や看取りについての事業所の方針を説明している。本人の状況に変化がある時は、家族や医師、職員等関係者で協議している。急変時はマニュアルに沿って同法人の病院を受診し、医師の指示のもと家族や関係者で方針を判断している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えマニュアルを作成している。院内外の研修に参加したり、キャリアパス勉強会にて消防署に行き救急法とAED使用の講習を受けている。	急変時や事故発生時に備えマニュアルを作成している。院内外の研修に参加したり、キャリアパス勉強会にて救急法とAED使用の学習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練マニュアルを実施し、入居者様が避難出来る方法を職員が身につける努力をしている。夜間、水害を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。法人内の防災訓練、地域の防災訓練にも参加している。また非常時の備品の確認を定期的に行っている。	月一回避難訓練マニュアルを実施し、入居者様が避難出来る方法を職員が身につける努力をしている。夜間、水害を想定しての避難訓練マニュアルを作成し実施している。法人内の防災訓練や地域の防災訓練にも参加している。	毎月1回事業所独自の避難訓練を実施し、利用者と職員が避難行動に慣れるようにしている。防災ノートに記入し、利用者の状況等を職員間で共有している。年2回の法人の夜間、水害想定防災訓練や地域の防災訓練にも参加している。水害訓練では、車椅子の利用者の避難として、停電時エレベーターが不可の場合、利用者を背負って階段を上る訓練を行った。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損なわない様に言葉使い、口調に注意して対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。	一人ひとりの人格を尊重して、本人の誇りやプライバシーを損なわないように言葉使いや口調には注意して対応している。スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。	言葉使いに気を付け、ひと呼吸置いてゆとりを持って接するケアを心掛けている。また、本人ができる事を遮らないで待つことや呼称、方言をはじめ、トイレ誘導の時の声掛け等にも留意している。カンファレンスでは自己評価の結果を踏まえて話し合い、実践に繋げている。書類の管理も徹底している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームあずさ	〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的な声かけ、話しかけを行いコミュニケーションを図り信頼関係作りに努め、本人の希望や思いが表出出来るように努めている。	意図的に声をかけを行いコミュニケーションを図り信頼関係作りに努め、本人の希望が表出出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来ることは出来る限り行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。	本人の出来ることは行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは自分で選べる方は本人に任せている。出来ない方には職員がお世話し支援している。洗面、整髪、歯磨き、髭剃りも見守りを行い、出来ない方には介助している。	身だしなみやおしゃれは、自分で選べる方は本人に任せている。出来ない方には、職員がお世話し支援している。洗面、整髪、歯磨き、髭剃りも見守りを行い出来ない方は介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、野菜切りなど出来る方には参加して頂いている。メニュー作成は業者対応だが行事や誕生日会でメニュー変更したりして入居者様の意見も取り入れている。行事では外食会やお花見弁当運動会弁当等も取り入れている。	食事前にテーブル拭き行って頂いている。業者メニューだが、入居者様の意見も取り入れメニュー変更している。行事ではドライブを兼ねた外食会を取り入れたりお弁当を取り入れている。	食材とメニューは業者が提供し、調理は職員が行っている。利用者もテーブル拭きや下膳等出来る事をしている。行事や誕生日会の際にはメニュー変更したり、花見や外食会も利用者の楽しみとなっている。週1回は菓子、調味料等をスーパーで購入するので同行する利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時、好き嫌いを聴き食量、水分量が一日を通して摂取出来る様に支援している。入居者様に合わせた食事形態にして提供している。食事を常時記録したり、食量が減ってきたりした場合、チェック表をつけて食量を確認し支援している。	食量や形態を一人ひとりに合わせて提供している。水分量も一日を通して摂取出来るよう声かけ支援している。食量が減ってきた場合、チェック表に記入して食量を管理し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨きの声かけ、見守りを行い口の中の汚れや臭いが生じない様に支援している。出来ない方は職員が介助している。義歯の方は毎日ブラッシング、週一回のポリドント洗浄を行っている。	朝夕の歯磨きの声かけ見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないよう支援している。義歯は毎日ブラッシング週一回洗浄剤を使用している。出来ない方には、職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心掛け、失禁、立ち上がりの悪い方は声かけ、時間誘導を行い自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を記入して排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄に心がけ、失禁のある場合は時間誘導し声かけを行い自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	必要な利用者はチェック表で排泄を確認している。布・リハビリパンツ、パット、オムツ、ポータブルトイレ等利用者の状況に応じて使用している。退院後、本人の意向から体調を見ながら、オムツをリハビリパンツに変えて、自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食量や水分量に配慮し、排便がない場合は日にちを確認して医師の処方した下剤を投与、それでも出ない場合は看護師により排便、浣腸を行っている。またレクリエーションで軽体操、散歩を取り入れている。	食量や水分量に配慮し、排便がない場合は日にちを確認して医師より処方された下剤を投与。それでも排便ない場合は看護師により排便又は浣腸を行っている。おやつにヨーグルトを提供したり、レクリエーションで軽体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しくするように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回から3回個人の体調を考慮して入浴されている。入浴を嫌がる方には時間を変えたり対応する職員を替えたりして工夫している。状態に応じて2人介助も行っている。入居者様の希望で入浴時間を変更することもある。シャンプーは備え付けであるが、私物を使用する方もいる。	週2回～4回体調を考慮し入浴されている。併設した病院内の機械浴にて入浴されている方もいる。	利用者は週2回から4回入浴している。併設病院の機械浴を利用している方もいる。入浴の順番や時間も利用者の意向に出来るだけ沿えるように工夫している。ゆず湯、しょうぶ湯等の楽しみや個人持ちのシャンプー等を使用している利用者もあり、個々のニーズに添えている。入浴を嫌がる方にも、タイミングを見て言葉を掛け支援している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームあずさ**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1階)	ユニット名(あずさ2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間照明、騒音などに注意して安心して眠れる様に支援している。また日中は個々にあった休息が取れる様に、また出来ない方には状況に応じてスタッフが支援している。	服用している内服についてはお薬手帳を確認したり、薬局よりのお薬の説明書を読み理解に努めている。また薬の変更があった場合は申し送りノートに記入したり口頭伝達している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している内服についてはお薬手帳を確認している。また薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入したり口頭伝達している。一人ひとりが薬の目的や副作用、用法、用量について理解している。	服用している内服についてはお薬手帳を確認したり、薬局よりのお薬の説明書を読み理解に努めている。また薬の変更があった場合は申し送りノートに記入したり口頭伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力にあった役割を行って頂き達成感を持って頂ける様に支援している。また一人ひとりにあった楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの力にあった役割を行って頂いたり、カラオケ、散歩、職員との会話等で気分転換出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴をレクリエーションで行っている。普段行かない場所には行事で出掛けたり家族と出掛けたりして外出出来る様に支援している。また週一回の食材購入時には順番でスタッフと出掛けている。地域行事に参加され戸外で地域の方と交流している。	散歩、外気浴をレクリエーションで行ったり、普段行かない場所には行事で出掛けたり、家族と外出されたりして戸外に出掛けられるよう支援している。また週一回の食材購入日には一緒に出掛けるよう声をかけている。地域行事にも参加し戸外で地域の方と交流もされている。	事業所の周辺を散歩したり、リハビリガーデンや中庭の東屋での外気浴は、お茶会や体操、ゲーム、歌唱等の際に日常的に行っている。花見、外出会、初詣、地域の防災訓練、どんど焼き等の行事に行ったり、家族との外出、食材の購入時には順番で職員と共に出掛けるなど、外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方には、自分で管理して使ってもらっている。それ以外の方はお小遣い程度を預かって、必要時渡している。お小遣い手帳に記入して管理している	お小遣い程度を預かり、本人が必要な時に渡しお小遣い帳に記入して管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出により自宅等へ電話している。本人用の携帯電話を本人管理のもと所持使用している方もいる。まや手紙が書ける方には書いて頂き、投函が出来れば投函して頂いている。	本人からの申し出により自宅へ電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を取り入れた歌、絵、塗り絵などを貼ったり植木、生花を置いたり、飾ったりしている。不快や混乱をまねく様な刺激物がある場合は速やかに取り除き居心地よく過ごせるよう工夫、調整している。	生活感、季節感を取り入れた歌・絵・塗り絵等を貼ったり植木鉢を置いたり花を飾ったり、また冷暖房の調整を行い居心地よく過ごせるよう工夫したり配慮している。	壁面には、季節の制作や習字、絵、季節の歌等を掲示し、リビングには大きなソファやテレビを置いてゆったり過ごせる場所となっている。トイレは車椅子対応で広く、男女の別になっている。1階と2階はエレベーターで行き来でき、1階のリビングからは段差なく中庭に出ることができ、東屋や花壇、樹木等があり景観もよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテレビ、テーブル、椅子、ソファ等を置き、思い思いに過ごすことが出来る様な居場所作りを心がけている。	共有空間にテレビ・テーブル・イス・ソファ等を置き、思い思いに過ごすことが出来る様な居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に慣れ親しんだ家具や寝具、衣類などを持ち込んで頂ける様に伝えている。	入居時に慣れ親しんだ家具や寝具を持ち込んで頂き、好きなように配置して居心地よく過ごせるようにして頂いている。	居室は広く、窓が大きいのでどの部屋からも外の景色が良く見える。部屋の空調設備、カーテン、洗面台、ベッドは備え付けてある。利用者は、馴染みの家具や寝具、衣類、写真、色紙等を配置し、その人らしい生活感が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来ることは行って頂き、身体機能を維持し安全で自立した生活が送れる様に努めている。	本人の出来ることは行って頂き、本人の声を常に聴き、本人のペースに合わせた生活を送って頂いている。身体機能を維持し安全で自立した生活が送れるよう努めている。		